

被災紙芝居で児童に

2019.3.1
毎日 高知版

65年実験水爆ニキビ



紙芝居の絵を持つ森本さん（中央）と橋田さん（右）ら—高知市で

制作で9人から教員

米国が1954年に太平洋・ビキニ環礁で行った水爆実験から、1日で65年を迎える。多くの漁船員が被災した県内では、記憶の風化を防ぐため、次世代へ継承する取り組みが進められている。小学校の教員らは、子どもたちに被災の事実を伝えようと紙芝居の制作に注力。被災者の高齢化が進む中、県内の被災の事実を子どもたちに伝えたい」と奔走している。

【松原由佳】

元船員の証言参考に

紙芝居作りに取り組んでいるのは、現職の小学校教員や退職教員ら。元船員で代表の橋田さんが依頼した。資

い先生たちにも被災の事実を知ってもらいたい」と声を掛け、9人のメンバーが集まった。元船員を支援してきた太平洋核被災支援センターの山下正寿事務局長(74)に話を聞き、元船員や遺族の証言集「ビキニ核被災ノート」を読み込んで理解を深めた。紙芝居では、県内の元船員や遺族の証言を盛り込みながら、ビキニ水爆実験の被災実態を説明。平和学習に取り組み「幡多高校生ゼミナール」が地域の事実を自らの言葉で伝える活動が続けている姿も描いた。

紙芝居の絵を手掛けたのは、県美術家協会会長で洋画家の森本忠彦さん(79)。長年、小

中学校で美術などを教えてきた元教員でもある。森本さんの力強い優しい絵にひかれ、橋田さんが依頼した。資料集めから始め、今年1月から約1カ月かけ

て、16枚の絵を描き上げた。水爆実験の様子や被災した第五福竜丸、ガイガーカウンタで魚の検査をする姿……。さまざまな情景を、アクリル絵の具で迫力ある絵に仕上げた。森本さんは「でき

北陸・芦原温泉
政府登録国際観光旅館
HOTEL
八木
PHONE (0776)78-5000

るだけ事実を再現しよう」と心掛けた。小学生に分かりやすく表現することを意識した」と説明する。

作成部数は未定だが、希望のある学校での読み聞かせや紙芝居の配布を検討している。紙芝居はDVD化もする予定だ。橋田さんは「ビキニ水爆実験が身近な問題であることを知ってもらいたい」と話している。